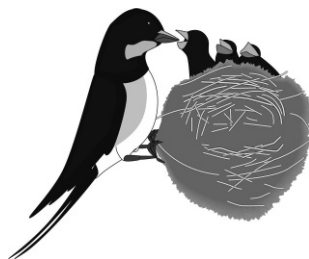


農業

令和8年5月号
会誌 No. 1743



目次

巻頭言

異常気象に伴う農林水産業の課題と対応技術……………江口 文陽 3
～持続可能な食料安全保障に向けて～

論壇

ウシの飼育は本当に環境に悪いのか……………広岡 博之 4
—ウシとメタンの関係について考える—

農業・農村担い手問題研究会

「第11回農業・農村担い手問題研究会」の開催について
「地域の信頼を得て、持続可能な農業を」……………林 龍太郎 6

農事功績者座談会

親子二代の米作りへの挑戦……………竹本 敏晴 18
—米作日本一の父から受け継ぎ、発展させて次の世代へ—
現地指導者のコメント……………金田 哲郎 23
意見交換……………24

農家の気持ち

農業と自衛隊が日本を救う理由……………松上信一郎 34

研究の最前線

対策の前に、相手を知ろう……………益子美由希 35
—レンコンの「カモ被害」を例に—

世界の農業は今

台湾農業への気候変動の影響と対策…………… 渡邊 朋也・蔡 政諺 46

私の経営と志

岡山県久米南町でぶどうを作る……………富岡 慎司 54
一つながりを大切にし、地域に必要とされる農業経営をするために—

統計情報

2025年青果物卸売市場調査結果（全国，年間）…………… 56

農政情報…………… 57

大日本農会だより…………… 58

編集部から…………… 58

表紙写真説明：シリーズ農村の伝統祭事

間々田のじゃがまいた (栃木県 小山市)

間々田のじゃがまいたは、旧日光街道の11番目の宿場である間々田地区に、江戸時代から続く伝統行事です。かつては、旧暦の4月8日に行われていましたが、現在では毎年5月5日のこどもの日に行われます。

真竹を芯にして、わら縄と稲わらを幾重にも固く巻き付けた蛇体に、これも真竹で編んだ蛇頭を巻き付け、ヒノキの枝の皮をむいた角を差し、アワビ貝の耳を付け、地元ではコケラと呼ぶシダ草を巻き付けて仕上げた、長さ約15mにも及ぶ巨大な蛇体を担いで、町内を練り歩きます。この行事は、江戸時代に、間々田地区に疫病が流行し、地域の龍昌寺のお坊さんが、八大竜王の功德をもって、疫病退散を訴えたことが始まりであると伝えられています。また、旧暦の4月8日は、ちょうど田植えの時期でもあり、ほど良い雨と風を併せて龍神に願ったものとも考えられます。

現在では、間々田地区7町内が、それぞれに趣向を凝らした蛇体をつくり上げ、この伝統行事の保存と伝承に取り組んでいます。間々田のじゃがまいたは、わが国の民間信仰を考える上で大変貴重なものであることから、2019（平成31）年3月28日に国の無形民俗文化財に指定されています。

(写真：間々田のじゃがまいた保存会 文：同保存会事務局長 野口 静男)